

# 中小企業診断士 津波古 透 の 経営革新、ススム その7

「経営革新ということが必要なのはよくわかるんだけど、何をすればよいのか思いつかない」。経営革新についての取り組みを説明していくと、このようなお話をよく耳にします。

企業として新たな事柄に取り組んでいくことの重要性は十分知っているし、業界動向や自社の将来に対する危機感もある。しかしながら、「では、何をすれば良いのか」と考えると、なかなか良いアイデアが浮かんでこないというのです。長い間、既存の事業で精一杯やってきて、相応に良い業績を上げることができたけれども、将来に対する漠然とした不安は常に付きまとっており、今のうちに何かをしておいたほうがよいという事はわかっているが、なかなか良いアイデアが浮かんでこないということなのです。



このようなケースでは、社長が一人で悩んでいることが多いように感じます。当然、一人だけで考え、悩んでいてはすぐに限界がきてしまいます。そこで、社長二人で考えるのではなく、一緒に経営する家族や従業員等から意見を聞くことを勧めることが多いのですが、そこではいくつかの注意が必要

要となります。

まず、ちゃんとした時間を設けて、経営会議やミーティングとしての位置づけをしつかりとメンバーに説明することから始まります。そしてここでは社長が一人でしゃべるのではなく、相手の話を一生懸命聴くことが最大のテーマになります。このことを「傾聴」と言い、心を傾けて相手の話を聴くことを意味します。そして、相手の話やアイデアを否定したり、軽んじたりしないこと。必ずメモを残すこと。時間を区切ってだらだらと長い時間をかけないこと。といったようなことに注意が必要になります。

経営革新に取り組んでいる企業では、このようなやりとりの中から思いがけないようなアイデアが生まれていることも多いのです。また、従業員や家族と一緒にセミナーに参加することは極めて有効です。そこでは、同じ悩みを持っている経営者からの意見を聞くことや先進的な取り組みをしている企業の方々からの刺激を受けることができ、同じテーマで従業員等と意見を交換することができるようになります。

最近では単に講師が一方的に話をする講演会形式よりもお互いに何かの作業を行うワークショップ形式のセミナーが増えてきました。これらは考えを整理するためのツールとして用いられるものが多く、そのまま企業に取り入れることができるものも多いようです。セミナーの出席をきっかけとして新製品のアイデアを固めたり、工場移転等の大きな決断をする企業も実際にあり、これらをテーマとしての経営革新計画を策定し、県からの承認を得ている企業は少なくありません。このように実際に行動に移すことができる場合はよいのですが、中には気持ちがあっても行動を起こさない方々もいます。そのような方々の理由は「忙しい」ということがほとんどです。新たな取り組みが大切だということとは理解してはいるけれども、既存の仕事が忙しくてなかなか時間がとれない、あるいは仕事以外の地域活動等で忙しいということなのです。これは決して良いこととは言えません。日本人は忙しいといってしまうとこれだけで全部許されると思っていると聞かれています。忙しいことで何かを成し遂げたような気がして、それで満足感を得ていることも多いようです。

ところが、忙しいというのは言い訳であつて実際には行動することが面倒くさいということなのではないでしょうか。これでは、どんなに良いアイデアがあつても何の意味もありません。朝から晩まで一生懸命働くだけでは良い方向に向かうかどうかは疑問で

あり、そこには努力のズレが生じることもあります。視野を広く持ち、多くの人からの意見を聞き、何が必要で何をしなければならぬのかを見極める力を持ち、それを自らが行に移すことができるようになることが、これから経営者に求められる能力なのではないでしょうか。

## ＜著者プロフィール＞

（文）津波古 透（つはこ とおる）  
沖縄県商工会連合会  
支援課 専門経営指導員  
シニアアドバイザー／中小企業診断士  
琉球大学卒業後、大手メーカー等を経て平成7年に与那原町商工会で経営指導員として採用される。商工会での業務の傍ら大学院に進学し、修了後は沖縄国際大学や沖縄大学で夜間部の非常勤講師を5年間勤めた。

## 退職金は国の制度で

中退共制度は、中小企業で働く従業員のための外部積立型の国の退職金制度です。  
掛金助成や税法上の優遇など、有利な特典がいっぱいです。  
安全・確実な中退共制度をぜひご利用ください。

お問合せ先

（独）勤労者退職金共済機構

中小企業退職金共済事業本部

〇三三四三六〇一五（代表）